

令和 5 年度本巣市教育委員会
事務事業の点検・評価結果報告書

令和 6 年 8 月
本巣市教育委員会

点検評価結果の概要

I. はじめに

1. 教育委員会事務事業の点検・評価制度の実施について

平成19年6月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、教育委員会の活動状況・会議の実施状況や所掌する事務の管理・執行状況について点検・評価を行う際には、学識経験者の知見の活用を図ることも規定されています。

本巣市教育委員会では、平成27年度に策定した「第1期本巣市教育基本計画（後期）」を目指す人間像を「自ら学び、求め、心豊かに自立する人間」と定め、園・学校、家庭、地域社会が互いに連携・協力して教育を推進し成果を上げてきました。しかし、幼児教育・学校教育・社会教育の施策や重点が別々に分けて設けられていたため、両者の関連性・連続性に欠けるという課題も残りました。

そこで「第2期本巣市教育振興基本計画（前期）」では、基本構造を大きく見直し、目指す人間像『ふるさとをルーツに、未来を切り拓き、たくましく生き抜く人間』を具現するために、幼児教育・学校教育・社会教育が共通の目標に向かって施策を実施していく構造となるよう改善を図りました。

教育を取り巻く社会の動向を踏まえ、令和2年度から5年間に重点的に取り組むべき施策を明らかにし、本市教育の一層の推進を図っています。

令和5年度の教育委員会事務事業の点検・評価は、この「第2期本巣市教育振興基本計画（前期）」に定める項目ごとに点検・評価することとし、今後の効果的な教育行政の推進及び市民への説明責任を果たすことを目的として、ここにその結果を報告いたします。

Ⅱ. 点検・評価の実施方法について

1. 評価の対象

教育委員会が令和5年度に実施した、会議・調査活動及び事務事業について点検・評価を実施する。

- ・ 教育委員会の活動状況、教育委員会会議の実施状況等
- ・ 本巣市教育振興基本計画の方針ごとの主要施策の執行状況、事務事業の執行状況

2. 評価の進め方

(1) 一次評価

教育委員会事務局において評価対象事業等の自己評価を実施する。

(2) 二次評価

一次評価を基に、評価委員（教育に関し学識経験を有する者等）により二次評価を実施する。

(3) 最終評価

教育委員会は、一次評価・二次評価の結果を踏まえ、最終評価を実施し報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表を行う。

3. 点検・評価の基準

点検・評価は、対象事業の必要性、効率性、有効性、達成度の視点から評価を行う。
また、下記の評定基準により総合的に評価を行う。

<総合評価>

次の4区分により達成度の評価を行いました。

評 定	内 容
A	順調に達成しているもの
B	おおむね順調に達成しているもの
C	達成見込みであるが課題があるもの
D	順調でないもの

※各施策中1項目でもB評価があれば、施策の評価はB評価としております。

Ⅲ. 評価結果の概要

1. 教育委員会の活動状況

令和5年度の教育委員会の活動状況の点検評価は、下記のようにになりました。

(1) 教育委員会の会議の活動状況	評価
①教育委員会の開催	A
②総合教育会議の開催	—
③点検・評価委員会の開催	A
(2) 調査活動の状況	
①学校訪問	A
②先進地視察	—
③市町村教育委員会連合会研究総会	A

2. 事務事業の執行状況

令和5年度の施策別の点検評価は、下記のようにになりました。

31施策105項目中、A評価が94項目、B評価8項目、実施なしが3項目でした。

方針1 統合された知・徳・体

・生きて働く学び	評価
施策(1) 確かで豊かな学びの育成 (6項目中の評価、A：6項目、B：0項目)	A
施策(2) 個性や能力を伸ばす教育の推進 (6項目中の評価、A：6項目、B：0項目)	A
施策(3) 「数学のまちづくり」の推進 (2項目中の評価、A：2項目、B：0項目)	A
施策(4) 英語教育の推進とグローバルな視野の醸成 (4項目中の評価、A：3項目、B：0項目、—：1項目)	A
施策(5) ICTを活用した情報教育の推進 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(6) 指導者の資質向上 (4項目中の評価、A：4項目、B：0項目)	A

・豊かな心	評価
施策(7) キャリア教育の充実 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(8) 地域ぐるみの道德教育の深化 (2項目中の評価、A：2項目、B：0項目)	A
施策(9) 人権教育の推進 (2項目中の評価、A：2項目、B：0項目)	A

施策(10) 心を動かす体験活動の充実 (5項目中の評価、A：4項目、B：0項目、－：1項目)	A
施策(11) 読書活動・図書館教育の充実 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A

・ 健やかな体

評価

施策(12) 体力向上・健康増進を図る運動習慣 (6項目中の評価、A：6項目、B：0項目)	A
施策(13) 「ウォーキング・ランニングのまちづくり」の推進 (2項目中の評価、A：1項目、B：1項目)	B
施策(14) 質の高い学校給食提供・食育の推進 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(15) 健康教育・命を守りきる教育の推進 (2項目中の評価、A：2項目、B：0項目)	A

方針2 安全・安心な園・学校、家庭、地域

評価

施策(16) 各園・学校や地域の特色を生かしたマネジメント (4項目中の評価、A：4項目、B：0項目)	A
施策(17) コミュニティ・スクールの発展 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(18) 子供たちの成長を支える地域学校協働活動の推進 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(19) いじめ・問題行動の未然防止 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(20) 教育相談・特別支援教育・インクルーシブ教育の充実 (4項目中の評価、A：4項目、B：0項目)	A
施策(21) 困難を抱える家庭への教育支援の充実（教育の機会均等の確保） (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B
施策(22) 家庭教育への支援 (3項目中の評価、A：2項目、B：1項目)	B
施策(23) 幼・小・中の一貫教育 (3項目中の評価、A：1項目、B：2項目)	B
施策(24) 防災教育・安全教育の充実 (3項目中の評価、A：3項目、B：0項目)	A
施策(25) 園・学校、社会教育施設・環境の整備 (5項目中の評価、A：5項目、B：0項目)	A
施策(26) 「チーム学校」の推進と教職員の勤務環境の向上 (4項目中の評価、A：4項目、B：0項目)	A

方針3 ふるさとへの愛着と誇り

評価	
施策(27) 「ふるさと本巣市」を学ぶ教育の推進 (3項目中の評価、A:2項目、B:1項目)	B
施策(28) 社会参画力の育成・ボランティア教育の推進 (2項目中の評価、A:2項目、B:0項目)	A
施策(29) 本巣市を担うリーダー育成の推進 (2項目中の評価、A:2項目、B:0項目)	A
施策(30) 青少年健全育成の充実 (3項目中の評価、A:1項目、B:1項目、－:1項目)	B
施策(31) 歴史・文化活動の推進 (4項目中の評価、A:3項目、B:1項目)	B

IV. 点検評価結果の内容について

(1) 教育委員会の活動状況

評価

①教育委員会会議の開催

A

教育委員会会議の開催状況については、会議を12回、議案47件の審議を厳正に行いました。また、委員会終了後には、委員からの情報提供や、事務局からの事務事業の進捗状況その他の報告に関し、委員と事務局との意見交換を活発に行いました。

②総合教育会議の開催

－

地方教育行政法の改正により、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り教育課題を共有するため、平成27年度から設置が義務化となり、開催しています。

令和5年度は開催しておりませんが、「アクティブチャイルドプログラム(ACP)」について、常に市長等と意見交換を行っており、「中学2年生広島平和研修報告会」、「沖縄派遣市長報告会」、「ホープ防災リーダーズ発足式」について報告会などを行い、事業の効果が十分伺えました。

③点検評価委員会

A

令和4年度に実施した教育委員会事業についての点検・評価結果を協議し、報告書をまとめました。

(2) 調査活動の状況

評価

① 学校訪問

A

調査活動の状況等については、本巣小学校、外山小学校、真桑小学校、席田小学校、本巣中学校、本巣幼稚園、神海幼稚園、真正幼稚園、弾正幼稚園、糸貫東幼稚園を視察し、園・学校の現状を把握した他、気づいた点について意見交換を実施しました。

② 先進地視察

—

新型コロナウイルスの感染症対策のため事業を控えました。

③ 市町村教育委員会連合会研究総会

A

県内教育委員会の実践する具体的活動も参考にしながら教育委員相互で交流ができました。

(3) 各施策における事務事業の執行状況

各施策 105 項目 347 事業中、A 評価 329 事業、B 評価 12 事業、実施なしが 6 事業で、約 95 % が A 評価でした。

方針 1 統合された知・徳・体

・生きて働く学び

施策(1) 確かに豊かな学びの育成

評価

1) 幼児教育における「非認知能力」を高める工夫	A: 4 ・ B: 0	A
2) 教科の本質に根ざした授業改善	A: 3 ・ B: 0	A
3) 「教科専門指導員」の配置	A: 2 ・ B: 0	A
4) 思考力・判断力・表現力を身に付ける指導	A: 4 ・ B: 0	A
5) 個別最適化された学びを支える「本巣市型 G I G A スクール」	A: 4 ・ B: 0	A
6) 生涯にわたり学び続ける場の充実	A: 3 ・ B: 0	A

施策(2) 個性や能力を伸ばす教育の推進

評価

1) 自発的な遊びの充実	A: 2 ・ B: 0	A
2) 学校における個性伸長学習	A: 2 ・ B: 0	A
3) 「やってみたい」「おもしろい」を引き出す機会づくり	A: 4 ・ B: 0	A
4) 中学校部活動	A: 5 ・ B: 0	A
5) 各種展覧会・コンクールの実施	A: 2 ・ B: 0	A
6) 生涯にわたる個性の伸長	A: 2 ・ B: 0	A

施策(3) 「数学のまちづくり」の推進

評価

1) 園・学校における数学教育の推進	A: 4 ・ B: 0	A
2) 社会教育における数学教育の推進	A: 5 ・ B: 0	A

施策(4) 英語教育の推進とグローバルな視野の醸成

評価

1) 幼・小・中一貫した英語教育の推進	A: 4 ・ B: 0	A
2) A L T と J T E の配置	A: 4 ・ B: 0	A
3) 実践的な英語活用能力の育成	A: 3 ・ B: 0	A
4) 大きく視野を広げ、世界から本巣市を見つめ直す青少年派遣事業	—	—

施策(5) I C T を活用した情報教育の推進

評価

1) 情報活用能力の育成	A: 4 ・ B: 0	A
--------------	-------------	---

2) プログラミング教育の推進	A: 3 ・ B: 0	A
3) 情報モラル教育の推進	A: 3 ・ B: 0	A

施策(6) 指導者の資質向上

評価

1) キャリアプランに応じた教職員研修	A: 5 ・ B: 0	A
2) 本巣市学校教育研究会における授業改善研修	A: 2 ・ B: 0	A
3) 研究指定実践校の指定	A: 2 ・ B: 0	A
4) 社会教育委員やスポーツ指導者の研修	A: 2 ・ B: 0	A

・豊かな心

施策(7) キャリア教育の充実

評価

1) 幼稚園におけるキャリア教育	A: 2 ・ B: 0	A
2) 学校におけるキャリア教育	A: 7 ・ B: 0	A
3) 家庭や地域、社会を巻き込んだキャリア教育	A: 2 ・ B: 0	A

施策(8) 地域ぐるみの道德教育の深化

評価

1) 園・学校における道德教育	A: 4 ・ B: 0	A
2) 家庭・地域と連携した道德教育	A: 2 ・ B: 0	A

施策(9) 人権教育の推進

評価

1) 園・学校における人権教育	A: 5 ・ B: 0	A
2) 家庭や社会における人権教育	A: 5 ・ B: 0	A

施策(10) 心を動かす体験活動の充実

評価

1) 自分の五感で確かめ、命や平和について考える「広島平和研修」	A: 2 ・ B: 0	A
2) 仲間と共にやり遂げた達成感を味わう「プロジェクト・アドベンチャー(PA)」	—	—
3) 生き方を考える中学校での講演会	A: 3 ・ B: 0	A
4) 感動体験としての「中学校音楽会」	A: 2 ・ B: 0	A
5) 心豊かで、安らぎとうるおいがあふれる芸術・文化を味わう文化ホール事業」	A: 3 ・ B: 0	A

施策(11) 読書活動・図書館教育の充実

評価

1) 本に親しみ読書を楽しむ学校図書館教育	A: 4 ・ B: 0	A
2) 子供の読書活動の推進計画	A: 5 ・ B: 0	A
3) 成人を対象とした読書活動の推進	A: 2 ・ B: 0	A

・健やかな体

施策(12) 体力向上・健康増進を図る運動習慣

評価

1) 「強い心」を育むことを中核とした「生きる力を育むプロジェクト」の推進	A: 6 ・ B: 0	A
2) 体力や運動能力の向上	A: 7 ・ B: 0 — : 1	A

3) 各種スポーツ団体の自主運営活動に向けた支援と団体間の連携	A: 5 ・ B: 0	A
4) ライフステージに応じた健康づくりや生きがいづくりができる各種事業の設定とスポーツコミュニティづくりの推進	A: 2 ・ B: 0	A
5) 地域に貢献できるスポーツ指導者の発掘及び指導力向上のための研修及び活動の充実	A: 2 ・ B: 0	A
6) 総合型地域スポーツクラブの活動充実にに向けた支援	A: 1 ・ B: 0	A

施策(13) 「ウォーキング・ランニングのまちづくり」の推進

評価

1) 体力や運動能力の向上を図るウォーキング・ランニングイベント	A: 4 ・ B: 0	A
2) ウォーキング・ランニングの環境整備	A: 1 ・ B: 3	B

施策(14) 質の高い学校給食提供・食育の推進

評価

1) 質の高い学校給食の提供	A: 4 ・ B: 0	A
2) 園・学校における食育の推進	A: 5 ・ B: 0	A
3) 社会教育における食育の推進	A: 1 ・ B: 0	A

施策(15) 健康教育・命を守りきる教育の推進

評価

1) 保健安全教育を充実させるための体制の整備	A: 4 ・ B: 0	A
2) 各園・学校の保健安全教育の推進	A: 3 ・ B: 0	A

方針2 安全・安心な園・学校、家庭、地域

・生きて働く学び

施策(16) 各園・学校や地域の特色を生かしたマネジメント

評価

1) 各園・学校における「生きる力」の育成	A: 3 ・ B: 0	A
2) 義務教育学校「根尾学園（仮称）」の設立	A: 2 ・ B: 0	A
3) 児童生徒・保護者のニーズに応じた教育環境の整備	A: 2 ・ B: 0	A
4) 学校事務の共同実施	A: 2 ・ B: 0	A

施策(17) コミュニティ・スクールの発展

評価

1) 4つの本巣市型コミュニティ・スクールの設置	A: 3 ・ B: 0	A
2) 園・学校における学校支援推進委員会の活用	A: 4 ・ B: 0	A
3) 地域に開かれた園・学校運営	A: 2 ・ B: 0	A

施策(18) 子供たちの成長を支える地域学校協働活動の推進

評価

1) 地域の実態に即した「地域学校協働本部」の設置	A: 4 ・ B: 0	A
2) 公民館を生涯学習の拠点に位置付けた地域づくりの推進	A: 5 ・ B: 0	A
3) ボランティアバンクによる人材の発掘と生涯学習活動の充実	A: 4 ・ B: 0	A

施策(19) いじめ・問題行動の未然防止

評価

1) 園・学校におけるいじめの未然防止のための予防・開発的教育	A: 6 ・ B: 0	A
2) いじめ・問題行動の未然防止のための実態把握	A: 3 ・ B: 0	A

3) 関連機関や有識者との連携を図ったいじめの未然防止	A: 4 ・ B: 0	A
-----------------------------	-------------	---

施策(20) 教育相談・特別支援教育・インクルーシブ教育の充実

評価

1) 教育相談の充実・外国人児童生徒への就学支援の充実	A: 5 ・ B: 0	A
2) 特別支援教育の充実	A: 4 ・ B: 0	A
3) インクルーシブ教育・ユニバーサルデザイン	A: 3 ・ B: 0	A
4) 不登校児童生徒への支援	A: 2 ・ B: 0	A

施策(21) 困難を抱える家庭への教育支援の充実（教育の機会均等の確保）

評価

1) 子育て家庭への様々な支援	A: 7 ・ B: 0	A
2) 小・中学校就学時の支援	A: 2 ・ B: 0	A
3) 留守家庭教室の充実	A: 2 ・ B: 1	B

施策(22) 家庭教育への支援

評価

1) 幼稚園における家庭教育	A: 3 ・ B: 1	B
2) 小・中学校における家庭教育	A: 4 ・ B: 0	A
3) P T A活動の推進	A: 2 ・ B: 0	A

施策(23) 幼・小・中の一貫教育

評価

1) 幼・小の滑らかな接続と連携	A: 4 ・ B: 2	B
2) 幼稚園教諭の人材確保・人材育成	A: 1 ・ B: 1	B
3) 小・中学校の円滑な接続	A: 3 ・ B: 0	A

施策(24) 防災教育・安全教育の充実

評価

1) 学校における防災教育・安全教育の充実	A: 3 ・ B: 0	A
2) 地域や家庭等と連携を図った防災教育・安全教育の充実	A: 5 ・ B: 0	A
3) 地域ぐるみの防災教育の充実	A: 3 ・ B: 0	A

施策(25) 園・学校、社会教育施設・環境の整備

評価

1) 園舎・校舎の施設建設・修繕	A: 2 ・ B: 0	A
2) 小・中学校体育館のエアコン設置	A: 2 ・ B: 0	A
3) 備品（学校管理備品・教材備品）や消耗品の整備・管理	A: 2 ・ B: 0	A
4) 安全な登下校のための「通学路点検」「見守りボランティア」	A: 3 ・ B: 0	A
5) 社会教育施設の整備	A: 2 ・ B: 0	A

施策(26) 「チーム学校」の推進と教職員の勤務環境の向上

評価

1) 教職員の適正な勤務時間と業務量の管理	A: 4 ・ B: 0	A
2) 業務の軽減と一元化を図る校務支援システム	A: 2 ・ B: 0	A
3) 中学校部活動における社会人指導者・休養日の設定	A: 2 ・ B: 0	A
4) 勤務時間を自己管理する働き方の徹底	A: 2 ・ B: 0	A

方針3 ふるさとへの愛着と誇り

施策(27) 「ふるさと本巣市」を学ぶ教育の推進

評価

1) 「ふるさと本巣市」について学びと発信	A:4・B:0	A
2) 「ふるさと本巣市」の偉人の生き方の学び	A:2・B:0	A
3) 「ふるさと本巣市」の文化遺産からの学び	A:2・B:1	B

施策(28) 社会参画力の育成・ボランティア教育の推進

評価

1) 「MSJ」「MSキッズ」活動の推進	A:3・B:0	A
2) 地域行事へのボランティア参加	A:4・B:0	A

施策(29) 本巣市を担うリーダー育成の推進

評価

1) 学校を中心としたリーダー育成	A:2・B:0	A
2) 市が主体となったリーダー育成	A:3・B:0	A

施策(30) 青少年健全育成の充実

評価

1) 青少年の健全育成に対する効果的な広報・啓発活動の推進	A:3・B:1	B
2) 子供が行事等の運営に参画し、マナーや社会のルールを学ぶことができるような地域づくりの推進	A:5・B:0	A
3) 海外に視野を広げる機会の設定と、青少年の豊かな国際感覚の育成	—	—

施策(31) 歴史・文化活動の推進

評価

1) 伝統文化の継承と継承者の育成	A:2・B:0	A
2) 各保存会、文化協会、文化団体、サークル等の活動の支援	A:3・B:0	A
3) 先人・偉人の調査・研究や歴史的文化資料の整備、保護・保存及び有効活用	A:4・B:0	A
4) 文化的な学習機会の充実と語りべボランティア等、人材の育成、地域文化の伝承活動の推進	A:3・B:2	B

V. 評価委員からのご意見

教育委員会の活動状況及び事務事業の執行状況について、点検評価委員会において委員からのご意見を集約したので報告します。

1. 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会の活動状況

① 教育委員会の開催

- ・自身も事務局の一員として参加させていただいておりました。委員の皆様からは、広い視野でご意見をいただけたことを思い出します。

② 総合教育会議の開催

- ・総合教育会議の開催回数が「0」だった理由は何か。
- ・アクティブチャイルドプログラムというのはどのようなものか。

③ 点検・評価委員会

- ・盛り沢山すぎて全てに精査はできませんが、各委員の立場で意見が集約される大事な会となっています。

(2) 調査活動の状況

① 学校訪問

- ・学校現場として、教育委員の皆様から貴重なご意見を頂戴できるので、ありがたく思うとともに、自身の感性を磨き続けたいと思います。
- ・教育委員の皆様が直接学校の様子を見てもらい、ご指導をいただく貴重な機会があることをありがたく思います。ただ、昨年は大雪と重なり、来ていただくのも申し訳ないような状況でした。学校も子どもたちの安全確認や除雪作業等の対応のため、落ち着いて指導を受けることが難しかったと感じました。今後は、柔軟な日程変更等について検討していただきたいです。

② 先進地視察

- ・本市は先進的な取組ができていますが、さらなる向上を目指し、今後、ぜひ他県市町村の先進的な取組を視察していただきたいです。

③ 市町村教育委員会連合会研究総会

2. 事務事業の執行状況について

方針1 統合された知・徳・体

生きて働く学び

施策1 確かで豊かな学びの育成

1) 幼児教育における「非認知能力」を高める工夫

- ・「10の姿」は、中学校の教職員も知っておくべきものです。継続して周知を図ります。
- ・学校の教職員として、「遊び」の意義、奥深さは勉強になります。
- ・小さなトラブル、いざこざを体験し自分達で解決を図ろうとすることは、社会性を育むには大切なことだと思います。
- ・「遊び」は「生きる力」の基盤も培っており、それを踏まえた小・中学校の教育でありたいです。施策の具体に「教え合う」「教え合い」の文言がありますが、教えるというよりは、思いを伝え合うという活動を重視しています。ただし、鉄棒やこま回しなど技能面ではこつを伝えている場面が

ありますが、教えるというよりは、こうするといいかものレベルです。

- ・情意の共有だけでなく、発想の対話も取り入れている園が増えています。先進園や研修でのクラスの会の話し合いを参考にしています。勝つための方法、やりたいお店、準備する物など、子供の発想を対話で決め出しています。成果として入れていただきたいです。
- ・個々に対応した指導は実際の現場の中では難しいと思いますが、できるだけ目配りをして幼児の活動意欲を充たすことは大事なことです。

2) 教科の本質に根ざした授業改善

- ・「教科等メンター」も、他校の授業研究会の授業者と対話し、指導案立案の相談にのり、当日参加することで、自身の資質の向上を図ることができると考えます。学校間で積極的な活用が期待されます。
- ・中堅教員、管理職の使命です。パワハラ・モラハラとか言われますが、優しく厳しく指導、支援をお願いします。
- ・令和5年度末に発足した「算数・数学会」も、その一助となれるよう尽力します。
- ・「本巣市版 授業改善の手引」にいて、他市とは異なる特長等あれば教えてほしい。
- ・楽しかった、わかった、できたという授業を目指すのは永遠の課題。そのためには研究授業や公開授業を通して、他者の評価を緊張感を持って受けるという実践の積み重ねあるのみです。
- ・市教委訪問の指導略案に、主体的な学びに係る記述欄ができたことで、より意識することができると考えます。

3) 「教科専門指導員」の配置

- ・専門指導員の先生の実在は、とても大きいと感じています。特に体育や理科では、運動における怪我や実験における事故等について適切な指導や環境整備がなされています。授業の質も高く、子どもの学習意欲の向上に結び付いています。学校によって指導員の配置のない教科がありますが、ぜひ多くの教科について専門指導員の配置をお願いしたいです。
- ・素晴らしいことです。
- ・小学校高学年での教科担任制の導入は積極的に推進したい。現状13名配置でその内理科教員が4名とのこと、今後の増員計画や現状人数での運用方法等についてわかる範囲内で教えてほしい。また、また他市では小学校中学年まで教科担任制を拡大しているところもあるが、本市での導入は考えておられるのか。根尾学園では一部1年生も教科担任制を実施しておられると聞いたが、他校への導入は無理なのか。
- ・教科専門指導員によって質の高い学習ができています。配置人数はこれで十分でしょうか？毎時間、入るとよいと思います。

4) 思考力・判断力・表現力を身に付ける指導

- ・児童生徒の主体的な学びを目指す上で、聞く姿・話す姿も、「型」から「その場に応じたベストの姿勢」への移行が必要と考え、試行しています。
- ・「話す・聞く」…まずは、ちゃんと聞ける、そして自分の意思を伝える…学習だけでなく日常生活、社会生活の基本なので是非とも地道にご指導を。
- ・ノートとタブレット端末それぞれのよさを生かした、ハイブリッド的な活用を考えたいです。
- ・「書く」力は「聞く・話す」の土台の上の高いレベルの技術。大切だと思います。
- ・探究型学習の一つの出口として、中3修学旅行の企業研修で、優れた技術等を見て・聞いてで終わるのではなく、自分のアイデアをぶつけたり、企業の方からアドバイスをいただくようなことを考えています。
- ・総合的な学習を中心に探究的学習を推進することには賛同、充実したい。根尾学園の「かがやき科」をモデルとし他校に広めるとありますが、各校にはそれぞれの強みもあると思うので、それを

生かし、どの学校でも「かがやき科」に該当する科目を創造し、強力に推進していただきたい。

- ・根尾学園のかがやき科の実践は確かに素晴らしい！しかし、規模の大きな学校では工夫が必要
- ・自学は目指す姿。実際にはある程度ノルマとして課さねばやれない子もいるので、そのバランスも大切。

5) 個別最適化された学びを支える「本巢市型GIGAスクール」

- ・相談室の校内教育支援センター化の一環として、学校のwi-fiが、校内のどの部屋からも安定して使えるようお願いしたいです。
- ・児童生徒の端末が快適に使えるネットワーク構築はGIGAスクールの大前提。その上で児童生徒の端末の効果と限界を明確にし、児童生徒同士の対話学習にも必須のアイテムとなるよう、実践を通して明らかにしていってほしい。
- ・ロイロノートが導入されたことで、児童生徒の学びの幅が広がったと感じています。
- ・「ロイロノート・スクール」を導入したことにより、タブレットの活用頻度や授業スタイルが激変しています。ビジュアルな操作による思考や、他の考えや作品等の共有などの学習展開が容易にできるメリットを子どもも教師も感じています。今後も、こういった有用なアプリを追加して導入していただきたいです。
- ・ロイロノートについては知識がないのでよくわかりませんが…生成AIとの共存や活用も、いずれ学校現場に導入されるのでしょうか。
- ・こういう自分で目標を決めて学習できる子が増えていくのは喜ばしいのですが、それができない子の指導や目標そのものについての見届けが必要でしょうね。
- ・タブレットの学校での使用率はいかがですか？

6) 生涯にわたり学び続ける場の充実

- ・公民館講座に参加された方々が、得意を生かして、学校の外部講師になっていただくこともありかと思います。
- ・(自分の経験から)人口が減っている根尾で教室を維持することが難しい講座もある。しかし、せめて地域の人の生涯学習の楽しみや生き甲斐にもなっているのがこれらの教室。公民館まで通える「足」さえ不便な方もいます。
- ・本市は、学校の図書室も市立図書館も蔵書が充実していると感じています。「ほんの森」で地域の方々を見かけるのは、その表れだと思います。
- ・規模は違うがそれぞれ熱心な利用者がいます。図書館相互の貸借もできるので(メール便)ありがたい。
- ・さまざまなニーズに応える図書館ネットワークづくりを進めてほしい。例えばしんせい本の森と地区公民館間、地区公民館と県図書館や近隣市町図書館などとのネットワークづくり、各地区公民館で他館の図書が検索でき、貸出、返却ができる環境づくりなど。すでに構築されているのであれば、市民に広く広報して周知していただくこと、できれば手続等も安易にできるようシなシステムを構築していただきたい。将来的には、自宅から地区公民館に出向くことが困難な市民にも、配達等のサービスなどできるようになればありがたい。

施策2 個性や能力を伸ばす教育の推進

1) 自発的な遊びの充実

- ・「10の姿」は、中学校の教職員も知っておくべきものです。継続して周知を図ります。
- ・中学校の体育大会の種目も、こうありたいと考え、生徒がプロデュースする試みをしています。
- ・運動遊びは人間が動物として生き残っていくための大切な要素。小さなケガを恐れず多様な運動アソビを経験させるのは基本の一つだと思います。

2) 学校における個性伸長学習

- ・根尾学園の実践の成果が他の学校へ反映されるとなおよいと思います。
- ・総合的な学習の時間のモデルと捉えています。根尾学園の生徒たちの、主張大会や各種報告会での姿を見、「かがやき科」の成果と感じています。
- ・少人数の生徒に対応する教師や周りの大人が用意されていたが、大規模校ではある程度グループ化（探求項目の）が必要と思われる。
- ・個性伸長学習について根尾学園の事例が紹介されているが、他校の個性伸長学習はどのようになっているのか。
- ・教師の得意を生かした課題追究型クラブの発想は面白い。教師の豊かな知識や技能を子どもたちに届けられるだけではなく、教師の善さが子どもたちに伝わるなど相乗効果が期待できる。但し、教師側にゆとりがあることが前提になるように思う。このあたりのバランスをどのように図っておられるのか知りたい。
- ・教師が面白がってやれば自ずと子供も伝わる。教えたが教師、学びたい教師でありたい。

3) 「やってみたい」「おもしろい」を引き出す機会づくり

- ・根尾ではあまりなかったが、場所の取り合いがある。本巣市民、子ども優先であるが空いていれば広く開放されてよい。
- ・昇段制度は、子どもの主体性の育成や、自己肯定感の醸成、よさの伸長等、大きな意味があると考えます。
- ・ふるさとの歴史文化を学び発信することはとてもよい。根尾学園のさくら学習、本巣小の織部等も同じ。
- ・児童生徒の講座について成果・課題が紹介されているのは真正公民館の6講座のみで、他館では児童生徒用の講座は見受けられない。子どもたちのニーズ調査を行い、児童生徒の参加できる講座をもっと増やすことはできないか。
- ・公民館講座に参加された方々が、得意を生かして、学校の外部講師になっていただくこともありかと思えます。
- ・根尾の人も下の公民館教室や講座に参加したい人はいるが、自力で行けないこともあり根尾公民館にすら行きづらい人もあるのは残念。逆に真正や本巣、糸貫から来てくださる方もある。

4) 中学校部活動

- ・完全地域移行の拡大について。体育係・文化係について。
- ・生徒のニーズを受け、各部活等に一人以上の社会人指導者を任命すること、大いに評価できる。但し、社会人指導者の持続的な確保について確たる見通しが持てるよう、広い立場から考えていかねばならないと思う。
- ・実際に、年齢等から勇退される地域指導者の方がみえます。部活動支援クラブの育成会長さんも、後任の方を探そうと努めてみえますが、なかなか見つからないのが現状のようです。
- ・子どもの目線に立った本市の体制（部活動推進協議会）のおかげで、合同チーム編制の手順が分かり、慎重で円滑な移行により、その種目をやりたい生徒たちが救われています。
- ・特に根尾ではこの交流はありがたい。
- ・部活動支援クラブは、生徒たちにとって、非常に意義のあるものとなっています。中体連等の大会で、担任する生徒の頑張りを見に来る教職員は増えている実感はありますが、休日の練習でも、可能な範囲で生徒たちの様子を見、日頃の指導・助言に生かす必要があります。

5) 各種展覧会・コンクールの実施

- ・個性伸長の面から展覧会やコンクールを幅広く開催し、自分や仲間のよさをお互いに理解し合える機会を持つことは有意義である。この場に、児童生徒の優れたノート作品なども展示したい。市

が力を入れているノート指導の良い機会となる。

- ・生成AIが台頭してくるこれからの世の中にあって、子どもが創意工夫をはたかせながら、自分の手で作品をつくり上げることの意義を、学校現場は大切にしたいです。
- ・これからは新市庁舎の一面に、しばらく子どもの保護者の同意があれば一時的に展示することもよい。

6) 生涯にわたる個性の伸長

- ・最初のうちはシステムに慣れるまでは大変だったと思うが、手続きの簡略化、利便性、公平性の向上になるのであればよかった。

施策3 「数学のまちづくり」の推進

1) 園・学校における数学教育の推進

- ・高木貞治の故郷として「数学のまちづくり」を目指す姿勢はとてもよい。本市の優れた施策の一つであると思う。但し、子どもたちに「何のために」という目的意識がどこまで身についているのか今一つ不明である。原点である「高木貞治」の生きざまについてどこで、どこまで指導されているのかはわからない。
- ・幼少の頃から、量感を養うことは、たいへん有益なことと考えます。
- ・収穫したトウモロコシやサツマイモを、大きさのグループに分けることだけでなく、幼稚園部の子は、そのグループから各自2個、3個と数えて袋に入れる体験もしています。
- ・数学的、論理的、思考力を鍛え高めることは哲学的、道徳的思考力を高めることにも基本的なところで繋がっていると思う。
- ・「15パズル」を実際にやってみると、試行錯誤する中で、論理的な思考ができあがっていくことを実感できます。また、ゴールできたときの達成感も、大きな自信になります。
- ・市内全部の4年生児童が「数学ワンダーランド」を見学することになっているが、見学だけで高木貞治の生きざま、素晴らしさがどこまでわかるのか疑問である。
- ・高木貞治の少年時代、数学を極めていった一生、その成し遂げた業績の偉大さなど、総合的な学習や特別の教科道徳などの時間を利用して、本巣の子どもたちが、郷土の偉人「高木貞治」について理解し、その生きざまにあこがれを持つような授業をどこかの段階で位置づけたい。高木貞治の数学理論は子供では無理だという声も聞くが、それは指導する側の不勉強そのものであり、その難しさを解き明かしていった貞治の存在こそ子供たちに知らせたい本質であると思う。
- ・押してもダメなら引いてみる！かけてみる、割ってみるなど頭のトレーニングが道徳的判断にも有効というシュナイター教育の説には納得ができる。
- ・令和5年度末に発足した「算数・数学会」でも、令和6年度に過去問の活用について取り組んでいきます。
- ・教条主義的、修身的な道徳教育より、わかる、できる喜びを味わえる算数、数学指導のためにも「数学のまちづくり」の取組は推進されたい。

2) 社会教育における数学教育の推進

- ・高木貞治を理解したうえで事業を実施すれば、真に「数学のまちづくり」につながると思う。
- ・一部の数学の先生の過度の負担にならないように。
- ・会場受験者は、昨年度より約50名増えています。広報の効果と、問題の面白さ・質の高さによるものと拝察します。
- ・特に土日に行うと休日出勤とならざるを得ない。しかし、岐阜高専の協力で行うのでやむを得ないが。
- ・今夏の中島さち子氏の講演後、駐車場で、他市町から参加された保護者の方から「大人も楽しめま

した。本巢市がうらやましいです。」という言葉を受戴しました。わざわざ声をかけてまで話をしてくださったことを思うと、その方にとって、いかに有意義な時間であったのかが分かります。私自身も、豊かで、どこか不思議な時間に浸ることができました。

- ・STEAM教育に関わっては、当日、中島さち子氏からの生徒たちに向けて、ご滞在先からオンラインでメッセージを受戴しました。市の本気が中島氏に伝わり、中島氏も本気でやってくださっていることが分かります。
- ・素晴らしい講師陣を得て頼もしい！
- ・昨年度、久しぶりにワンダーランドを訪れると、教具が入れ替わったり、レイアウトが変わったりしており、継続と発展を感じました。
- ・モレラを会場とするというのもダイナミックですばらしいアイデア。

施策4 英語教育の推進とグローバルな視野の醸成

1) 幼・小・中一貫した英語教育の推進

- ・今後ますます外国籍の児童生徒が増える可能性がある中、幼少の頃から異文化に親しむことは、共生社会の実現にも寄与されることと考えます。
- ・知る限りだが、ALTの人たちの人間性も適正もよい人が増えていると感じる。特にネイティブでありながら本市に根を張って英語教育を支えていただいているALTがいる。

2) ALTとJTEの配置

- ・兼務校制度によって、1校に複数のALTが来てくださることで、児童生徒は、より幅の広いコミュニケーションができ、来校を楽しみにしています。
- ・教科専門指導員と同様に、JTE・ALTの存在はとても大きいと感じています。何よりも子どもの学習意欲が高まり、楽しみながら苦手さを乗り越えようとしたり、さらに伸びようとしたりする姿につながっています。
- ・3人もの先生で構成されるとはすばらしいし、ありがたいこと。

3) 実践的な英語活用能力の育成

- ・実践的な英語活用能力の育成についての施策すべて評価できる。しかし、これでどこまで実践的な英語活用能力が習得できるのかよくわからない。各自に目標を持たせ、小学校6年生、中学校各学年段階で、「英語検定」または「TOEIC」などの検定試験を受けさせ、自分の到達度を確認できるようにすることも一方法と思う。
- ・国際交流、他国の文化を知るためにも、またALTの背景を知り、より親しさを増すためにも、このようなALTの母国の紹介は積極的に進めたい。
- ・「English Days in NEO」が新型コロナウイルス感染症を乗り越え、脈々と続いていることが素晴らしいと感じています。
- ・WELCOME NEO! ALTをはじめ関係スタッフの事前準備、当日の運営までよくなされた。

4) 大きく視野を広げ、世界から本巢市を見つめ直す青少年派遣事業

- ・予算や受け入れ態勢の問題もあるが、必ずしもオーストラリアでなくてもよい。
- ・中国とは長い文化交流の歴史があったとは思いますが、韓国や台湾でもよい。いつそインドでも。いずれ中国を抜く大国となるとも。中国以外の派遣を考えてはどうか。

施策5 ICTを活用した情報教育の推進

1) 情報活用能力の育成

- ・ロイノートが導入されたことで、児童生徒の学びの幅が広がったと感じています。
- ・常に共有すること、知ることが必要かどうか、ケースバイケースだとは思いますが、しかし、いろいろな

ツールを使いこなすことができるのは、これからの時代に必要だろう。それができない子へのフォローを。

- ・「Teams」は、先述の「算数・数学会」でも活用できそうです。より参加者が増えると期待されます。
- ・今はすぐに誰でも世界中に繋がる利点と同時にマイナス面も意識させているのはよい。

2) プログラミング教育の推進

3) 情報モラル教育の推進

- ・SNSがいじめの温床にもなるので十分な配慮が必要。
- ・子どもは、大人が想像する以上にICT機器の扱いに長けています。大人も積極的に操作することで、ICTのよさと危険性を知る必要があると考えます。
- ・もっと保護者にも情報モラルの講座等に参加させて欲しい。
- ・乳幼児期からの保護者への啓発を強く感じます。動画やスマホで育児をさせている保護者もいます。
- ・親もわからないことが多いので共に学べるのはありがたい。

施策6 指導者の資質向上

1) キャリアプランに応じた教職員研修

- ・常勤講師や若手教員の資質向上は必須事項。但し、研修に振り向けるゆとりのない実態も耳にする（若手教員に限らず）。研修に専念できる時間の確保についても併せて考慮していく必要がある。
- ・県総合教育センターや岐阜教育事務所が主管する各種研修との関連が、よく図られていると感じています。
- ・幼稚園の教職員への研修で、資質向上も図られています。
- ・管理職とはちがった立場、また広い視野で指導・助言いただけることが、若手教員の励みになっています。
- ・若手教員の身になって共に考え、適切に指導助言していただけることにより、若手の意欲と自信が育っています。様々な学校管理業務がある中、管理職だけでは十分できない指導を低根にしていただけ、本当に感謝しております。今後も継続してお願いしたいです。
- ・幼稚園の教職員への研修で、資質向上も図られています。
- ・教員にとって、1日の学校生活が「教材研究」で終わり、「明日、子どもたちにこんなことを伝えたい」とわくわくできるような学校経営を行うことが、論文応募者増につながると考えます。

2) 本巣市学校教育研究会における授業改善研修

- ・「教職員も主体的に学ぶ」という観点から、可能ならば、教職員にも、どんなジャンルのどんな人の講話を聞きたいか、と尋ねるのもよいと思います。
- ・研究授業こそ教師の指導力を試され、また力をつける機会となるので是非継続されたい。市内だけでなく近隣の北方町、瑞穂市とも連携してもよい（旧本巣郡レベルで）
- ・委嘱されることにより本人も自覚し研鑽を積むことで力をつけるので”出番”を作ることはよい。

3) 研究指定実践校の指定

- ・補助金の交付はありがたいと感じましたが、岐阜教育事務所による研修校指定は、公表会の開催や成果物の作成等、職員にとって大きな負担となっている側面があります。この研修校の制度自体が今の時代に合わなくなっているように感じます。真に子どもや学校（教師）が主体者となって研究を推進できる新たな仕組みづくりを要望します。
- ・令和5年度に関わらせていただいた授業者の方は、不易と流行のバランスを考えながら、何を生徒が学べるとよいか、本当によく考えてみえました。その努力を広めていきたいです。

4) 社会教育委員やスポーツ指導者の研修

- ・過去に受講したが参考にはなったが、駅前サテライトは不便だった。

施策7 キャリア教育の充実

1) 幼稚園におけるキャリア教育

- ・「朝の会」の時間はなかなか取れない現状なので、施策の具体の文言に違和感を覚えます。今は、いろいろな園で、「クラスの会」「こども会議」「お話しタイム」などの名称で、子供同士の対話を位置付け実践しています。疑問に思ったことを一緒に考え、解決策を話し合ったり、やってみたいことを仲間ですり合わせたり、友達のがんばりを認め合ったりしています。
- ・幼稚園においても小学校のように朝の会、帰りの会の場でこのような取組がされているのはよい。
- ・コロナ禍の規制が少なくなり、給食配膳や掃除の活動を子供が行うようになってきました。当番活動として組むこともあります。自主性を重んじて「やってくれる子」を募っていることもあります。人のためになる仕事を体験して、相手が喜ぶ、自分も嬉しいという感情を味わわせています。
- ・我々大人でも言えることだが、準備は頑張るが後片付けやそうじこそ責任をもってやり遂げる姿勢は大事。

2) 学校におけるキャリア教育

- ・「正解のない問い」について考える場も位置付けていきたいです。
- ・つつい無目標で流されやすい毎日に、自覚的に過ごす習慣をつける試みは大切。ができるようにしたいです。
- ・「キャリア・パスポート」が、子どもたちが自分の生き方を見つめたり、じっくり考え事をしたりしたいときの拠り所となるようにしたいです。
- ・地元の職場に、中学生を進んで受け入れてくださる風土があることが、たいへんありがたいです。新規で「受け入れるよ」と声をかけてくださるところもあり、感謝しています。
- ・本巣幼稚園では、コロナ禍でも職場体験を受け入れ、工夫して継続していました。
- ・地域の協力を得ての職場体験は大事な機会となっていると思う。
- ・昨年度、生徒たちは、講師の先生のメッセージに感銘を受け、その後、考え方や生き方が変わっていきました。それは、今年度も続いており、「本物に触れる」ことのすごさを実感しました。
- ・講師は身近な近所のおじさん、おばさんでよいと思う。一生懸命働いている人の日常の暮らしについて語ってもらうことが大切。
- ・都内企業や国会議事堂見学とキャリア教育のつながりがよくわからない。都内の企業というと大企業本社なのか、また国会で話を聞く相手はどなたか。国会議事堂は社会科の見学先としては重要で大きな意義があるが…。
- ・ここでも「本物に触れる」ことの素晴らしさを実感できましたが、「見て・聞いて」の企業研修から、もう一步踏み込みたいです。
- ・中1・2が中3の思いを聞くこと、逆に中3が後輩に願いを託すこの取組は、不易のものとして残していく必要があると考えています。
- ・中3の子にも下学年の子にもよい機会となっている。
- ・中学校長会として、県公立高校入試に係るここ2年間の大きな変更（オンライン出願化、調査書の記載項目の変更等）を鵜呑みにするのではなく、批判的・発展的に捉えていきたい。
- ・IT関連もよいがSDGsや食（生産）や林業、防災に関わるような進路についても重点を置いてほしい。

3) 家庭や地域、社会を巻き込んだキャリア教育

- ・幼稚園でも、夏季休業中に、一家庭一ボランティアの用紙を配付し、家庭で活用してもらうようにしました。中学生、学園高等部では生徒は非常時、災害時などでは、学校に避難してくる地域住民

に対しては支援する側としての活躍が期待される時代です。（ジュニア防災リーダーのように）そのような意識付けと実際の訓練も必要かと思います。

- ・令和5年度の中3生は、過年度の先輩の姿を知らない中で「ふれあい会議」に臨んだが、地域の方々の根気よく丁寧な助言のおかげで、やりきることができたと考えます。子どもを中心に据え、それを取り巻く家庭・地域・学校が、横の連携をとりながら、何ができるかを考え行動できるコミスクでありたいです。
- ・全く同感。高齢化が進む中、中学生の力は地域（含、祭り行事など）を支える大きな力となっている。しかし、カリキュラムがいっぱいいっぱいの中、地域行事まで関わるゆとりがない、という声があるのも事実。無理のない範囲で関わらせてあげたい。その場合、学校が前面に出なくても地域（自治会役員）に任せればよい。

施策8 地域ぐるみの道德教育の深化

1) 園・学校における道德教育

- ・単純なケースとして、落ちているゴミをさりげなく拾える勇気を持てる道德的実践力がつくことを願う。
- ・当該校区の授業者はもちろんのこと、指導案について共に考える教職員にとっても、大きな意義のあるものとなりました。（私自身も、その内容項目について深く考えるきっかけになりました。）その結果、児童生徒も心を耕すことができました。
- ・あるいは迷っている場合、よりベターな選択ができるよう他者の考えもよく聞いて、判断できるような場面を研究授業のポイントにしてほしい。
- ・地域教材の開発を進めてもらいたい。高木貞治(数学 糸貫)、黒川栄(へき地医療 根尾)、久富宇三郎(糸貫川メ切 糸貫)、松尾松太郎父子(富有柿生産の拡大 糸貫)、武藤貞一(評論家 本巢)など、道德教材として開発可能な素材である。
- ・保護者も巻き込んで迷っている時にどう判断、行動すべきか本音で語れる場面でトレーニングできるとよい。極論だがディベートでもよい。いずれにしても道德的授業も積極的に公開するのはよい。

2) 家庭・地域と連携した道德教育

- ・令和5年度は、集合型の家庭教育学級を開催することができました。親子のふれあいを通じて、他の家庭の様子を感じ取ることができたと思います。保護者向けの講演会も実施でき、親が学ぶ機会が増えました。
- ・校区の青少年育成市民会議に参加すると、自治会長の方々、青少年育成推進員の方々が、地域の子どもたちの成長を真に願われ、また、自分たちに何ができるかを考えていらっしゃるがよく分かります。繰り返しになりますが、子どもを中心に据え、それを取り巻く家庭・地域・学校が、横の連携をとりながら、何ができるかを考え行動できるコミスクでありたいです。

施策9 人権教育の推進

1) 園・学校における人権教育

- ・「ひびきあい活動」自体は十分定着しています。形骸化することなく、子どもたちの心に真にはたらきかけられる活動でありたいです。
- ・啓発用リーフレット「心の輪」に掲載して広く発信できたことはよいと思いますが、内容的にややマンネリ化している傾向も感じます。「あいさつ」「はたらく」「なかよし」という3本柱で書く制約を外し、各園・学校におけるひびきあい活動やその中で育っている人権意識を紹介してはどうでしょうか。
- ・「子どもの声をよく聞くこと」の重要性を、改めて学んでいます。

- ・小学校では制服の選択制とまではいきませんが、入学説明会の際に帽子（キャップ・ハット）や鍵盤ハーモニカの色（青・ピンク）などを男子用・女子用と決めつけずに紹介するようにしています。
- ・制服の選択制は個性を尊重する上でもよいと思う。機能的なデザインを増やしたい。

2) 家庭や社会における人権教育

- ・大きな刺激となりました。子どもたちに「物事を批判的・発展的に見ましょう」と言っている私たち教職員が、まずその目をもつことが必要と考えます。
- ・とてもよいお話が聞けました。
- ・本巢市ひびきあい賞の表彰は、教育委員会の先生が学校を訪問し、代表の子どもたちに取組のよさを伝え、直接表彰してくださっているの、子どもたちの誇りや励みになっています。今後もぜひ継続していただきたいです。
- ・親の学習機会を増やして欲しい。親の関心度が低い。

施策 10 心を動かす体験活動の充実

1) 自分の五感で確かめ、命や平和について考える「広島平和研修」

- ・「中学生だからこそ学ぶ」という市の方針と援助をありがたく思っています。各校では、本市の「非核平和都市宣言」との関連も図られていると考えます。生徒たちには、ここでも「何ができるかを考え行動する」ことを求めていきたいです。
- ・惨状は少しでも五感を通してわかるためには広島は
- ・市長報告会には、たくさんの方に子どもたちの願いを聞いていただだけ、ありがたかったです。また、生徒と教職員は、他校の生徒の願いを聞くことができました。

2) 仲間と共にやり遂げた達成感を味わう「プロジェクト・アドベンチャー（PA）」

- ・プロジェクト・アドベンチャー施設の閉鎖のため無実施とのことだが、心を動かす体験活動として大変意義ある活動なので、ぜひ代替施設で実施するか、または別の形で事業を継続していきたい。

3) 生き方を考える中学校での講演会

- ・生徒たちは、桑山氏のメッセージ「思いを馳せることから始めよう」に感銘を受け、その後、生徒たちから「思いを馳せる」という言葉が聞かれるようになりました。それとともに考え方や生き方が変わっていき、年度末には、生徒会による「能登半島地震義援金」という一つの活動となりました。「思いを馳せる」「自分事として捉える」は、今年度も引き継がれており、「本物に触れる」ことのすごさを実感しています。
- ・現に起きている戦争、紛争について学ぶことは平和教育にも繋がる。グローバルな視点を持つためにも重要な学びの場となっている。これからもこのような講演会が持たれることを望む。

4) 感動体験としての「中学校音楽会」

- ・当日、出発前に生徒たちに招かれ、合唱を聴きました。一人一人の顔を見て聴いているうちに、いろいろなことが思い出され、熱いものが込み上げてきたことを、今も覚えています。感慨深い音楽会となりました。
- ・声楽専門の指導者を招いて実演もしてもらいアイデア、とても素晴らしいと思う。生徒たち全員にレベルの高い専門家の音楽を体験させることは、生徒たちの意欲向上・技能向上につながると思う。
- ・本物にふれることはとてもよい。

5) 心豊かで、安らぎとうるおいがあふれる芸術・文化を味わう文化ホール事業

- ・限られた予算の有効活用は難しいと思うが、文化を守り育てることは、ふるさとの誇りにすることなので引き続きお願いしたい。

施策 11 読書活動・図書館教育の充実

1) 本に親しみ読書を楽しむ学校図書館教育

- ・本市の学校図書室の蔵書は実に充実しており、学習活動にも活用されています。また、昼休みには、多くの生徒が図書室を訪れ、読書に親しんでいる姿が見られます。
- ・各校の当該職員のみなさんの創意工夫を感じています。
- ・市内全学校への専任図書司書・補助員の配置は大いに評価できる。今後は専任図書司書の読書指導、図書館の環境構成等経営力をいかに高め、子どもたちの読書生活を向上させるかが課題となる。その意味で、先進的に図書館経営に勤めている学校図書館の見学や交流等の研修はとても大切になる。子どもが惹きつけられるような低学年用コーナーも設置していきたい。
- ・図書司書補助員の創意工夫、センスがもたらす子どもへの読書教育の影響は大きい。
- ・朝の読書は、生徒の心の安定にもつながっています。
- ・毎週、朝読書の時間にボランティアの方が読み聞かせに来てくださり、大変助かっています。読書の楽しさや様々な本の紹介など、子どもたちも楽しみにしています。
- ・読み聞かせボランティアの方の活躍がありがたい。

2) 子供の読書活動の推進計画

- ・ジュニア司書養成講座は、読書好きな子や図書館好きな子にとって1ランク上の読書にかかわる活動として認知され、真桑小からも数名の子が参加しています。もっと親しみたい子、詳しくなりたい子の願いを叶えるすばらしい取組であり、ぜひ継続していただきたいです。
- ・「子どもの読書活動の推進計画」のどこかの項目に、新しい推進計画の策定ができたことを成果として入れておくとういと思ひます。とても見やすいリーフレットは画期的です。周知するのに効果的な教育委員会の活動です。
- ・無償で活躍している読み聞かせボランティアの方には頭が下がる。

3) 成人を対象とした読書活動の推進

健やかな体

施策 12 体力向上・健康増進を図る運動習慣

1) 「強い心」を育むことを中核とした「生きる力を育むプロジェクト」の推進

- ・中学校の体育教員も参加させていただき、運動の本質（運動の意義、子どもの喜びなど）を学ばせていただきました。中学校の保体学習に生かされることを期待しています。
- ・毎年、職員の異動もあることから、年に一度運動プログラムを学ぶ機会があることは、大変ありがたいと感じています。専門性を身に付けたり、体育の授業像を理解し合ったりする貴重な研修の機会であり、今後もぜひ継続していただきたいです。
- ・小学校の児童たちが、真剣に、笑顔をもって取り組んでいる姿に、子どもたちの欲求（体を動かしたい、速く走れるようになりたい）を感じました。
- ・真桑小では、運動会の準備体操として「魔法のダンス」を位置付けています。また日頃の体育の授業の準備体操としても活用しています。1年生から6年生まで元気いっぱい、楽しんで運動できています。子どもの運動欲求の実態に即しており、今年度も同様に実施する予定です。
- ・運動が単なるトレーニングでなく楽しく目的を持って夢中になって行えるような仕組みになっていることが大事。そういうノウハウを学ぶことはいみがある。
- ・魔法のダンスが定着しつつあるように思う。要するに意図的に負荷をかけて運動するということが基盤になっていると思う。
- ・新型コロナによる子どもの体力低下が、報道等で取り沙汰される中、本市の取組は、他市町・他県

の手本になると思います。

2) 体力や運動能力の向上

- ・コロナ禍の影響により、特に 25mシャトルランに関して全国平均よりも低い値となりましたが、令和 6 年度の測定ではほぼすべての種目において全国平均値を上回る結果が得られています。子どもたちの体力の回復が見られるようになってきました。
- ・シャトルランは持久力を測る一つの方法だが、体力の大事な基礎。運動不足が心配される。持久走で高めるといふより鬼ごっこのような遊びを通して運動量を増やしたい。
- ・体育の免許を所有していない教員にとって、一番知りたいのは「指導のコツ」と思います。体育専門指導員の先生方の存在が、たいへんありがたいです。
- ・体育科専門指導員による授業提案や T 2 としてのサポートは、担任にとってよいモデルとなっています。安全面の配慮や指導のコツが的確で、子どもたちも授業を楽しみにしています。今後も継続して指導員の配置をお願いしたいです。
- ・手厚い配慮ですばらしい。
- ・木村泰子先生の特別授業を拝見し、はっとさせられました。子どもが自然に学びに入っていくことは、体育のみならず、他教科でも目指したいところです。
- ・金哲彦氏などすばらしい講師。
- ・体の具合に関わらず、或いは、体の具合に応じて、どの生徒も安心して参加でき、かつ運動能力を高められる種目の工夫や開発が、きわめて重要であると考えます。
- ・限られた時間内で無理のない体育大会。そんな中でも盛り上がり達成感を味わえるためには種目の工夫が必要。部活動の社会人指導者は、これからも増えていくとよい。
- ・中学校では、体育大会等で「チャレンジスポーツ in ぎふ」にも参加できる種目を入れる試みがなされています。
- ・「チャレンジスポーツ in ぎふ」の取組を身近な市内の学校（学級）と競り合いながら楽しむことができるよう、校長会でもタイムリーに情報共有できるように連絡し合うことに努めました。このことにより、一つ上の記録を目指して挑戦する機運が高まったと感じました。
- ・スポーツテスト、体力テストを意識してトレーニング的に取り組み、数値を上げていこうとすることもモチベーションの一つ。子どももその気にさせて自らの記録を伸ばす意欲ができるような指導はよい。
- ・楽しみながら運動ができるような環境（場づくり、時間づくり）を整えることは、たくましい子を育てるための大事な使命の一つ。
- ・こういう機会を設けることはとてもよい。

3) 各種スポーツ団体の自主運営活動に向けた支援と団体間の連携

- ・人口減少の進む中、やむなし。しかし、意欲のある市民がスポーツを楽しめる環境は確保されたい。
- ・子ども会などの解散等に伴いラジオ体操も参加が少ない。親の負担が多い

4) ライフステージに応じた健康づくりや生きがいづくりができる各種事業の設定とスポーツコミュニティづくりの推進

- ・イベントとして定着してきた。本巢らしい取組となってきた。近隣市町からも参加者が増えるといふ。

5) 地域に貢献できるスポーツ指導者の発掘及び指導力向上のための研修及び活動の充実

- ・部活動支援クラブの地域指導者の方々が研修を受けられることで、さらに安心して、また工夫を凝らして指導を行うことができ、それが生徒に還元されるので、効果の大きい事業と考えます。

6) 総合型地域スポーツクラブの活動充実にに向けた支援

施策 13 「ウオーキング・ランニングのまちづくり」の推進

1) 体力や運動能力の向上を図るウオーキング・ランニングイベント

- ・モレラ発の 30 km コースは当初の浪漫ウオークの趣旨とは異なってくるが、ウオーキングそのものとして十分ねらいを達成している。
- ・モレラに近づくにつれて増えてくるオレンジTシャツを目にしたり、その方々（見知らぬ方々）と手を振り合ったりすると、一体感に似た喜びを感じます。
- ・文殊の森をコースの一部としてトレイルランニング大会が行われている。現在、揖斐川町からスタートしているがトレイルランニングは全国的にも市民権を得て行われている。企画、運営も中心は市内の人たち。教育委員会としても協賛されたい。

2) ウオーキング・ランニングの環境整備

- ・校区の文化財、見どころを中心に歩けるコースが認知されるとよい。

施策 14 質の高い学校給食提供・食育の推進

1) 質の高い学校給食の提供

- ・教育長さんの「子どもの心と体を健康に」の願いのもと、学校給食アドバイザーさんの「学校給食に妥協なし」の心意気と、一体となって献立を立案し調理をされる栄養教諭さん、学校栄養職員さん、給食調理員さん、学校給食センターのみなさんのおかげで、毎日おいしい給食を食べられることに、心から感謝しています。
- ・真桑小でも、手作り感のある、おいしい給食を楽しみに登校する子が多くいます。異物混入の心配がほとんどなく、アレルギー除去にも対応してもらえ、安心していただくことができています。
- ・他に例を見ない予算によって、「ふるさと食材の日」が充実し、その充実によって、子どもたちの「ふるさと食材」への関心が高まり、よく食べ、心と体が健康になるという流れができています。
- ・あまごやあゆ、梨や柿、サンライズのデザートなど、地元産の豊かな食材やおいしい料理をいただくことができています。子どもたちも楽しみにしており、保護者の食への関心も高まっていると感じます。令和 6 年度は、PTA から 2 度目の給食試食会の実施について要望があり、現在計画しているところです。
- ・地産地消は大変望ましい。限られた予算ではあるが今後も是非継続されたい。
- ・食物アレルギーについては、鶏卵除去食の実施はもちろんのこと、「料理別使用材料一覧表」には代表的なアレルゲン、「原材料配合一覧表」には 8 品目・20 品目が明記されています。8 品目に関わっては、「くるみ」の表示義務化に迅速に対応されており、学校での確認にたいへん役立っています。
- ・また、令和 5 年度に何回かにわたってお尋ねした「魚介エキスに含まれるアレルゲン」の詳細が明記していただだけ、甲殻類・貝類に特別な配慮を要する子どもたちの安全確保につながっています。
- ・学校は、子どもや保護者にアレルゲンの情報を提供する（＝守る）ことと同時に、自分で食品表示を見て食べられるか否かを判断できる子どもを育てることを意識したいです。
- ・鶏卵除去食を希望する子ども（保護者）が多く、信頼と安心を提供してもらえていることを強く感じます。除去食を検食すると、鶏卵を使用しなくてもおいしい味付け（調理）がしてあり、満足できます。除去食が提供されるたびに、調理員の方々の熱意と工夫に気付かされ、改めて感謝の気持ちを感じます。
- ・学校給食センターも園、学校現場も配慮を要するが命に関わることなので、まずは保護者に知っていただくための第一歩。
- ・学校は、学校給食センターの取組（安全・安心、手作り、おいしさ等）を、学校だより等を使って、

保護者に広く伝えたいです。

2) 園・学校における食育の推進

- ・新型コロナの第5類移行にともなって、学級担任も積極的に食育に係る話をしたいものです。学校給食センターの取組、食材の旬や栄養・特産地、主菜や副菜の名前の由来など、話題はどれだけでもあります。時々、職員室のホワイトボードに書いています。

3) 社会教育における食育の推進

施策 15 健康教育・命を守りきる教育の推進

1) 保健安全教育を充実させるための体制の整備

- ・自分の体の様子を言葉では表現しにくい園児の子たちが、安全・安心に生活できることに大きくつながります。
- ・学校医の先生方から専門的な指導と助言をいただけることで、学校は新たな視点を学び、日常の保健安全に生かすことができます。
- ・他県の例で、健康診断が行われなかったことが報じられた。学校保健安全委員会が機能していれば避けられた(?)と思う。そういう意味でもこの会で客観的に子どもの健康状態をつかむことは大切。
- ・学校の実態から、学校保健会総会及び研修会への参加人数に限界がある中、講話をオンラインで視聴できることは画期的であり、たいへんありがたかったです。
- ・不登校児童、生徒についての対応は。

2) 各園・学校の保健安全教育の推進

- ・養護教諭、特に養護助教諭の「1年目・一人職」という不安が軽減され、ありがたいです。
- ・子どもたちには「自助・共助」の意識を高め、学校職員は大川小の裁判結果を踏まえ「地域の災害の可能性と最適な避難」への意識を高めたいです。
- ・毎回の訓練で、前回実施した内容に工夫を加えながら、より実践的な訓練になるよう実施しています。子どもと一緒にやる訓練とは別に、職員だけでやる訓練(研修)も実施しながら、実態に即した訓練(本番に即応する訓練)にできるよう努めています。
- ・能登半島地震を機会に具体例を何度も示しながら、繰り返し訓練をするしかない。本市では濃尾地震の教訓があるが風化しやすい。マナーにならないよう工夫しながら取り組みたい。
- ・体育の学習や運動系部活動の場面以外でも、マスクを外すことができる生徒は増えてきました。気温上昇が一層激しくなる現代にあって、自分でメリハリを付けて着脱できる指導をしなければなりません。

方針 2 安全・安心な園・学校、家庭、地域

施策 16 各園・学校や地域の特色を生かしたマネジメント

1) 各園・学校における「生きる力」の育成

- ・文字通り「生徒の生きる力」の育成に資する専門家の招聘や、喫緊の学校課題の克服・改善に資する職員研修等、各校の創意工夫を生かした学校経営に生きています。
- ・真桑小では金銭教育を兼ねて「起業家体験プログラム」を6年生で実施しています。ふるさとのよさをデザインした手ぬぐいを制作・販売する活動を通して、社会や地域とつながって生きることを学ぶ貴重な体験の機会になっています。ぜひ今後も継続して実施できるようお願いしたいです。
- ・生きる力を育てる教育活動推進事業補助金を生かした各校の豊かな取組とは、具体的にどんな取り組みがあるのか。事例を紹介してほしい(1校でも結構)。
- ・教育委員会の学校や園訪問では、どのような目的で実施されるのか。管内の園・学校はそれぞれ特色や課題があることと思うが、それを踏まえた訪問指導なのか、また、各園・校の先生方の困りご

とや要望も聞いたりしておられるのか。

2) 義務教育学校「根尾学園（仮称）」の設立

- ・根尾学園の取り組みで成果の上がっている教育活動を他の小中学校に生かしているのか。またその予定はあるのか。
- ・他の小中学校も、自校の良さに目を向け、固定観念を捨て、発想を大胆にすることなどによって、根尾学園のような教育活動を創造することができるのではないだろうか。
- ・根尾学園の「かがやき科」をモデルに、総合的な学習の時間の工夫を考えたいです。
- ・根尾学園流かがやき科は根尾らしく定着してきていると思う。今後他校での、それぞれの地域の文化、人材を活かしたかがやき科につながることを期待したい。

3) 児童生徒・保護者のニーズに応じた教育環境の整備

- ・遅くまで預からなければならぬ事もあるようだが、よく対応されていると思う。

4) 学校事務の共同実施

- ・本市では、早い段階で学校運営支援室が設置されたと記憶しています。一人職である事務職員が、当該運営支援室、同一校種間、小中間という3つの連携先をもつことができ、円滑な業務遂行につながっています。
- ・一人職の事務職。キャリアの差もメンタルの具合もある。その中でサポートしあうのは大切。ただ、それもまた一部の人には一時に負担をかけることになるが助け合いたい。
- ・一校での判断が難しい事務手続も、共同実施協議会のおかげで、同一步調をとりながら業務を遂行できていると考えます。

施策 17 コミュニティ・スクールの発展

1) 4つの本巢市型コミュニティ・スクールの設置

- ・「本巢市型コミュニティ・スクール」とは、中学校区の幼・小・中を一体的なものとして組織したコミュニティスクールのことで設置後数年経ていると思うが、一般のコミュニティー・スクールと比較し、どんな成果が出ているのか、また課題は何か等、検証結果について1, 2紹介してほしい。
- ・地域の声が入ることは、学校経営にとって有益なことです。保護者・地域・学校の三者が、地域の子どもを真ん中に据え、何ができるかを考え行動できるコミスクでありたいです。
- ・真桑小の支援推進委員会では、登下校における子どもの安全や見守りが積極的に話題にされ、民生委員さんや青少年育成推進員の方等、地域の方主導でゾーン30の指定や通学路の見直し等の動きをつくっていただいています。
- ・PTAを越えた様々な立場の人が一同に会して意見を述べ合うのはよい。園・学校側に苦情を言うだけでなく地域の子どもの地域で見守り、時には注意(安全上)することも大切であり、うまく機能していると思う。
- ・学校は、子どもたちの学校であると同時に、地域の学校でもあります。地域で、どんな若者に育てたいかを共有することが肝要と考えます。
- ・園・学校側は提案資料は必要であるが達成率何%というように過度に数値にこだわりすぎたり、資料作成にエネルギーを費やしすぎたりする必要はない。

2) 園・学校における学校支援推進委員会の活用

- ・民生委員の方や見守りボランティアの方に支えられて安全に登校できています。その一方、見守りの方々の高齢化が進んでおり、安定的な見守り活動の継続には、個人頼みから組織化への移行が不可欠であると感じています。
- ・どの校区も見守り隊の方の活躍が見受けられる。
- ・ながら見守りの継続を、もっと地域に働きかける。

- ・少子化で悩ましい問題だが、外山まちづくり協議会のようなすばらしい実践例がある。

3) 地域に開かれた園・学校運営

- ・地域支援コーディネーターが中心となった学力向上サポーター(「子どもの学びのサポーター」に変更になったのでは?) 事業については、各コミュニティースクールと連携を図ったりしてうまく機能していると思う。
- ・学校ホームページの他、学校だよりを地域の回覧文書に入れていただくなど、それぞれの方法で、学校の情報発信に努めています。
- ・本巢公民館では、園・学校だよりを玄関ロビーに掲示してもらっています。保護者だけでなく地域の方々に、園や学校のことを知っていただける機会を作ってもらっています。
- ・日頃お世話になっている民生委員の方や見守りボランティアの方を「商品デザイン品評会(6年起業家体験学習)」「ありがとうを伝える会(児童会活動)」などにお招きし、子どもの姿や成長を直接感じていただけるように努めています。
- ・不審者対応に苦慮する中「開かれた園・学校」としての取組も行われており、よくやっている。

施策 18 子供たちの成長を支える地域学校協働活動の推進

1) 地域の実態に即した「地域学校協働本部」の設置

- ・昨年度の自分の立場(根尾公民館社会教育指導員)だが、根尾学園や本巢小・一色小等で文化・防災について出番を作っていた。
- ・放課後チャレンジクラブは、子どもたちにとっても人気の活動で、児童も多く参加しています。令和5年度は、ホッケー選手による指導やオルゴールづくりが行われました。12月の活動では、支援者の方がサンタクロースの衣装で参加してもらえ、子どもたちも楽しそうにしていました。今後もぜひ継続して実施していただきたいです。
- ・頭がさがる。
- ・一部の学校においてはスタッフ、サポーターの負担が多い。
- ・とても良い施策だ。

2) 公民館を生涯学習の拠点に位置付けた地域づくりの推進

- ・中学生にとって、地域貢献とボランティアの心を育む貴重な機会となっています。
- ・小学生は種目に参加しながら中学生の活躍する姿を観ています。そうして中学生になったら、今度は自分が・・・という意識が自然と芽生えると思うと、こういうしくみはとても大切だと感じます。
- ・中学生にとってもよい機会となっている。
- ・令和5年度の中3生は、過年度の先輩の姿を知らない中で「ふれあい会議」に臨んだが、地域の方々の根気よく丁寧な助言のおかげで、やりきることができたと考えます。子どもを中心に据え、それを取り巻く家庭・地域・学校が、横の連携をとりながら、何ができるかを考え行動できるコミスクでありたいです。
- ・あまり中学生は会議などには関心がない。
- ・保護者の方だけでなく、地域の大人の方々が参加されていることが素敵です。
- ・市民全体にラジオ体操の関心がない。
- ・地域の市民運動会が盛大かつ効率よく開催されました。
- ・根尾は少子高齢化の中で従来の運動会という枠でなく無理なく集える会という形にならざるを得なかったが、最近は根尾踊り保存会の皆さんと全員で根尾踊りができた。
- ・根尾は全体の人口が少ない上、自力で公民館まで足を運べる人も少ないが6講座が開設されていてありがたい。

3) ボランティアバンクによる人材の発掘と生涯学習活動の充実

- ・見守り隊含め、ありがたいこと。特にスタッフの方には感謝。
- ・ふるさとの文化を見直し、学ぼうとする人（子）がいるのはありがたい。
- ・青少年育成推進員の方もよく活躍されていてありがたい。

施策 19 いじめ・問題行動の未然防止

1) 園・学校におけるいじめの未然防止のための予防・開発的教育

- ・学校は今後も、フローチャートを含め、「生きてはたらく」危機管理マニュアルの更新に努めていきます。
- ・フローチャートは大切だが、いかに初期段階でアンテナを張って発見できるか。全職員で常に見守って情報共有しながら未然に防ぎたい。
- ・「みんなで守る5つの誓い」については、その内容について、市内の全員の子どもが理解し、該当することがあれば、いつでも子どもが相談したり知らせたりできなければならない。そのためには、誓いの内容について子どもたちにいかに周知させるか、またどんな些細なことでも自由に相談できる子どもたちと教師(周囲の大人も含む)の人間関係を構築しておくことなどが前提となる。始業式での校長講話等もよいが、やはり担任が常に問題意識を持ち、常に子どもに寄り添うことが大切である。
- ・学校は、「5つの約束」を折に触れ、子どもたちに伝えています。また、困ったときの相談窓口を周知していきます。
- ・真桑小でも入学式・始業式で「そっとおしえてね」等について必ず呼びかけています。最初は「保護者からの相談」がいじめ等を発見するきっかけとして多かったですが、子どもたちとの約束を守ることを実践する中で、「友達からの情報提供」が多くなりました。自分では言えなくても、困っている友だちを放っておかない子どもが増えていることを実感しています。
- ・機会あるごとに全職員が共通行動を取ることは大切。
- ・「SOSの出し方」においては、スクールカウンセラーの先生が、学年の発達段階に応じた指導・助言をしてくださいました。また、いじめアンケート等は、実施したその日のうちに目を通し、早期発見に努めています。
- ・子どもを褒めること一つをとっても、その子をよく見ていなければ、その子の心に届く褒めはできません。「足で稼ぐ」ことを大切にしたいです。
- ・担任だけでなく支援員、養教、校務員もよく子どもを見ている。
- ・園でも「あったかい言葉がけ県民運動」の用紙を配付し、提出しています。

2) いじめ・問題行動の未然防止のための実態把握

- ・アンケートを見る際、「はい」から「いいえ」に○を打ちかえていないか、その逆はないかなど、細心の注意を払って見る必要があります。
- ・真桑小では、年5回の「おしえてね」アンケートを実施しています。選択式・記述式の設問があります。アンケート結果に目を通し、心配な記述をした子を中心に、毎回全員の子どもとの面談（教育相談）を位置付け、その子の思いに寄り添う対応ができるよう努めています。
- ・子どもをよく見ることは、子ども理解と生徒指導の基本中の基本です。いつなんどきも怠らないようにします。今後は、対話も大切にしていきたいです。

3) 関連機関や有識者との連携を図ったいじめの未然防止

- ・スクールロイヤーさんには、タイムリーに相談ができ、専門的な助言がいただけるのでありがたいです。
- ・校長会での周知機会もあり、いじめに限らず、ほぼ毎年、様々な内容についてスクールローヤーの方に相談しています。経験的に判断するだけでなく、法的な判断をもらうことで、冷静に自信をも

って対処できています。

- ・学校・園の職員にとってスクールロイヤーのような専門的な知見を持った人の存在は大きい。困ったときは大いに活用したい。
- ・昨今の親によるいじめ、ネグレクトの状況から少しの変化も見逃すことなく未然防止に努めたい。

施策 20 教育相談・特別支援教育・インクルーシブ教育の充実

1) 教育相談の充実・外国人児童生徒への就学支援の充実

- ・校内の支援体制だけでは十分機能できないケースがあり、教育相談総括指導員や子ども支援対策監と連携したケースがいくつかありました。学校単独で対応するよりも確かな成果が得られ、保護者からの信頼も増しています。このような連携を今後も継続していただきたいです。
- ・教育相談特任指導員や子ども支援対策監の方のおかげで、園や学校だけで対応していたことにサポートしていただいている。保護者にとっても、相談する窓口が増えたことがよいと思う。
- ・教育相談員の存在によって、救われた子どもがたくさんいます。時間的なものも含めたさらなる充実を望みます。
- ・不登校の子ども達の健康について。
- ・この調査によって、目には見えにくい子どもの現在の状況が分かりやすくなり、教育相談や支援に生かすことができます。
- ・教員は英語は多少使えても、他の言語は容易でないことがほとんどなので、3名の方の配置がありがたいです。今後は、ポルトガル語の方もいてくださるとよいです。

2) 特別支援教育の充実

- ・非常勤教育講師の存在は、その子の心の安定にもつながっています。学級担任・教科担任は、非常勤教育講師の方と連携をよく図り、その子をよりよく導きたいです。
- ・毎年支援の先生の配置人数が減る傾向があり、危機感を感じています。優先順位があるわけではありませんが、つい周りに影響がある子への支援が優先され、だまって困っている子へ手が回らない状況が生まれつつあります。予算的な制約があるかと思いますが、現場のニーズに即した人員配置を要望します。
- ・特別支援学級や通級指導教室が多く設置され、ニーズに応じた支援が充実してきています。ただ、発音（構音）や吃音の悩みに対応できる仕組みや人材はなく、困っている子どもや保護者が多くいます。まずは、その実態把握が全市的に実施されることを要望します。そして、言語通級教室が開設されることを期待します。
- ・協議において適切な事例を提示いただけたことで、自校での実践に生かす（応用する）ことができました。
- ・特別支援教育コーディネーターの役割が重要となっている。研修で資質向上を図ることはもちろんだが、事前教育支援委員会だけでなく、連絡協議会も行われ、中学校区ごとの工夫ある取組がなされている。
- ・個別の教育支援計画等の書式の統一や確実な引き継ぎが、保護者の心的な負担（例：学年が上がるたびに、わが子の特性を担当に一から話さなければならないなど）の軽減になります。
- ・形式に終わらず実効性ある書式で端的にまとめるとよい。

3) インクルーシブ教育・ユニバーサルデザイン

- ・授業者には、板書等の環境に加え、発問等においても、どの子も分かりやすいことを意識するよう求めています。
- ・年に数回の交流だが、子どもたちには地域に共にくらしていること、障がいとは何かを学ぶ機会にもなる。

- ・いつ見ても、分かりやすいリーフレットだと感じています。市民のみなさんに広く知られるとよいです。

4) 不登校児童生徒への支援

- ・教員は「みんな」という言葉を使いやすいですが、それを使う時に、今、学校に来ることが難しい子がいることを意識できているのか、我々の感性が問われます。
- ・すばらしい成果
- ・登校することが難しかった子どもたちにとって、「本巢の学び舎」が居場所になり、そこから徐々に学校へ足が向く（学び舎との併用）ことに、場の提供の大切さと、子どもたち自身の頑張りを感じます。
- ・「本巢の学び舎」の設置とその運用が素晴らしい。学校以外の場で行く場所の選択肢ができた。
- ・富有柿センターの有効利用だと思う。スタッフの配置という問題もあるが学校以外の”居場所”を設けることはよい。

施策 21 困難を抱える家庭への教育支援の充実（教育の機会均等の確保）

1) 子育て家庭への様々な支援

- ・子どもの「安心した登校」につながるありがたい施策です。
- ・この子や保護者にとっては大変ありがたい制度。夢をつなぐ支援となっている。
- ・とりわけ本巢中学校区は南北に広いので、生徒の安全な登下校につながっています。
- ・特に根尾地区の子たちにはありがたい。
- ・子ども支援対策監の存在が非常に大きく、安心して相談することができています。
- ・根尾でも少ないが毎回楽しんで参加できている。

2) 小・中学校就学時の支援

- ・ランドセルの贈呈は、保護者の負担軽減の上でも、子どもにとって鞆の軽量化の上でも、とてもよいことと考えます。
- ・保護者にとって経済的にもありがたい。
- ・子どもの「安心した登校」につながるありがたい施策です。

3) 留守家庭教室の充実

- ・保護者にとって経済的にもありがたい制度になっている。
- ・園のスタッフには、ご負担になっていると思うが、保護者にとってはありがたい。

施策 22 家庭教育への支援

1) 幼稚園における家庭教育

- ・幼児にとって「家族と一緒に、ごはんを食べる時間・遊ぶ時間・過ごす時間」が、その後の人格形成に大きな影響を与えることを考えると、とても重要な取組と思います。
- ・食育は家庭でこそ、その必要性を認識していただきたいことの一つ。挨拶やSNS同様、重点的に取り組みたい。
- ・「三つ子の魂百まで」
- ・虐待やネグレクトによる不幸な事件を減らすためにも、このような取組は大切

2) 小・中学校における家庭教育

- ・熱中症対策に関わっては、「睡眠時間の確保」と「朝食の確実な摂取」を呼びかけています。
- ・家庭でのインターネットやSNSの適切な使用について、学校が積極的に関わらざるを得ない現状があります。
- ・地域とPTAのつながりはあまりない。

3) P T A活動の推進

- ・あいさつ活動においては、P T A役員の方々が、青少年育成推進員さんや民生委員さんによるあいさつ活動に加わるなど、相乗効果が見られました。
- ・ネット、SNSによるイジメや被害が多い現代は必要不可欠なテーマだと思う。

施策 23 幼・小・中の一貫教育

1) 幼・小の滑らかな接続と連携

- ・夏休みには、中学校の教員が幼稚園を参観することで、子ども理解や教育の原点を学ぶよい機会となっています。
- ・夏休みを利用し、低学年職員（または幼児教育に関心が高い職員）による幼稚園での研修に参加しています。園児の遊びや活動の様子、児童理解や子どもへのかかわり方などの面で、大きな学びが得られています。
- ・幼小接続の重要性が高まる今日にあって、本市の取組は、画期的であるとともに、小中接続の具体に大きく生きていますと考えます。
- ・幼・小どちらも慌ただしい勤務状況だろうが、お互いの現場、指導の姿を交流することによって刺激になるし学ぶ事も多い。
- ・夏休みに、中学校の教員が幼稚園を参観することで、子ども理解や教育の原点を学ぶよい機会となっています。
- ・配慮を要する子についての指導の方法など幼から小へ情報が提供されるのもよい。書面だけでは伝わらないこともある。
- ・改革チームの立ち上げによって、幼小の接続について、実践者のレベルで話し合う機会を設けることができた。参加した園・学校は意識化が図られた。
- ・幼稚園の先生方、小学校の先生方が、相互に園・小学校を活発に参観できるとよいと考えます。これは、小中学校間でもいえることです。
- ・普遍的なプログラムも大切だが個別の支援の情報交流も大切。子ども自身だけでなく家庭環境も把握できる。

2) 幼稚園教諭の人材確保・人材育成

- ・よい人材を確保するためにも、本市の教育・保育の成果を公表し、新規採用職員を計画的に採用していく必要がある。
- ・受け入れる側の負担もあるだろうが新たな担い手を育てるためにも、また園にとっても若手を指導することによって改めて自らの指導の原点を見直すきっかけにもなる。
- ・よい人材を確保するためにも、本市の教育・保育の成果を公表し、新規採用職員を計画的に採用していく必要がある。
- ・大いに進めたい。理論、理想と現場での現実について、学生だけでなく園のスタッフにも学びの場となることが期待される。

3) 小・中学校の円滑な接続

- ・中学生の児童会サミットへの参加は、児童生徒双方の大きな励みとなりました。
- ・本巢小・中は隣接のメリットをうまく活用している。普段から交流していると地域の子ども会活動などにもよい効果がある。
- ・令和5年度は、今まで以上に幼小、小中の子供の交流が盛んに行われた。特別支援に関わる子や保護者は、個別に見学や相談会を設定してもらえた。
- ・一日入学がどちらにもよい機会となっている。
- ・昨年度、中学校の入学説明会では、新しい制服が大きな注目となりました。2年にわたって丁寧に

準備されたおかげで、生徒たちは、大きな混乱もなく、学校生活をスタートすることができています。

- ・とても大切な場となっている。

施策 24 防災教育・安全教育の充実

1) 学校における防災教育・安全教育の充実

- ・昨秋に頻繁に起きた熊出没をきっかけに、本巢中校区では、熊対応マニュアルを作成しました。今後も、妥協することなく取り組むとともに、子どもたちが自ら正しい判断をして行動できる力を育んでいきたいです。
- ・自然災害から人為的なリスク（ミサイル・不審者）多様なリスクが世の中に存在することを子どもの発達段階に合わせて事前、事後の指導で言って聞かせ、形だけのマンネリに陥らぬよう…
- ・マスクの着脱、学習用具の持ち帰り等、感染症対策と熱中症対策の中で、子どもがよりよい対応を選択できる力を育てていく必要があります。
- ・研修会では、中学生防災士やジュニア防災リーダーの、中学生ならではの視点とアイデアを聞くことができました。管理職も、これまでの経験値から話すことで、双方に深まりが生まれました。
- ・真桑小からは、校長と防災士の資格を取得した職員が研修会に参加しました。実践的に考える必要性を強く感じ、校内での職員研修や命を守る訓練のもち方について、改めて考える機会となりました。
- ・研修会に参加して、中学生防災士の着眼点の広さを痛感した。大人もともに学ばせてもらえる機会となった。
- ・子どもの発達段階にもよるが、実際の事故例を紹介しながら指導できるとよい。

2) 地域や家庭等と連携を図った防災教育・安全教育の充実

- ・幼稚園は、令和5年度より地元のぎふトヨペットさんのご協力により、交通安全教室を開催してもらえた。年長児のみだが、歩行訓練だけでなく、電気ミニ自動車に乗り運転手側の体験もして楽しく学べた。
- ・各園・校では、このような見守り隊の方への感謝の気持ちを大切に、ていねいに対応されていると思う。
- ・トラウマにならないように配慮は必要だが、できるだけ五感に訴えるような指導が効果的。（身内に事故などを体験している子がショックを受けぬよう）
- ・道路交通法の改正もあり、よい機会と考えます。子どもが自らヘルメットを正しく着用し、自ら自転車の安全点検をできるようにしたいです。
- ・今後は自転車の乗り方については、今まで以上に安全を求められる。そのための安全点検は必要。
- ・緊急メール配信システムは即時性に優れており、緊急時の情報提供は必ず行いますが、内容によっては学校が情報を配信し過ぎると、主体的に判断する力を鈍らせる可能性もあると考えます。バランスを大切にしたいです。
- ・メール配信の恩恵にあずからない家庭に対してのフォローが必要。
- ・専門家の知見に触れて学ぶことができるのがよい。
- ・警察署や交番の方には、常に子どもたちを見守っていただいているので、日頃から情報共有とお礼をしていきたいです。
- ・このような態勢が未然に防止できていることになっていると思う。

3) 地域ぐるみの防災教育の充実

- ・避難所生活で大きな不安材料になるのが新型コロナですが、マニュアルをいち早く作成していただいたことで、いざという時に備えることができました。

- ・職員の中に「防災士」がいることが、安全教育や命を守る訓練等の向上につながっています。防災士になる研修の受講を積極的に希望する職員が一定数おり、学校の防災機能の向上の面からも、今後も継続して防災士資格を取得する研修機会の確保をお願いしたいです。

施策 25 園・学校、社会教育施設・環境の整備

1) 園舎・校舎の施設建設・修繕

- ・子どもたちに「学校の建物は安全」と話しています。
- ・地味で予算も要る事業だが、安全が優先される。また、避難所にもなることが多いので計画的に進めていきたい。

2) 小・中学校体育館のエアコン設置

- ・体育館のエアコン設置は、他市町の教職員のみならず、保護者の方からもうらやましがられるほどです。中体連の大会も安全に実施することができています。
- ・被災を想定したエアコンの設置ではありますが、学校での教育活動における熱中症対策等にも役立っています。被災・停電時のエアコンの動かし方については、操作手順を忘れがちなため、毎年定期的に実施していく必要性を感じています。
- ・停電した時の電源や一定量の水の確保についても（プールの水利用）考慮したい。

3) 備品（学校管理備品・教材備品）や消耗品の整備・管理

- ・学校は、予算の有効活用のためにも、簡易な故障は「まず自分たちで修繕してみる」ことが必要と考えています。
- ・旧根尾小学校には、まだ使えそうな備品がある。根尾学園立ち上げで時間的余裕がなかったと思うが、改めて確認してムダな(?)購入にならないようにしたい。
- ・緊張感ある点検は安全の見直しになっている。各校台帳の様式は統一されているのだろうか？また電子データ化されているのだろうか？

4) 安全な登下校のための「通学路点検」「見守りボランティア」

- ・合同点検の度に、横断歩道や信号機の設置は容易ではないことが分かります。道路状況の変化を踏まえた柔軟な対応、代替案の工夫をお願いしたいです。
- ・見守り隊や自治会長、自治会の交通安全推進委員の方の意見はおそらく教頭に伝わっていると思うが、このように3課が集まって検討することは大切。
- ・「子ども 110 番の家」の名簿は、毎年更新されていると思いますが、実際には名前があってもほぼ機能していない家もあり、民生委員の方などがとても心配されています。緊急のトイレなどに使用させていただくことがあります。学校からお手紙を届けたりお礼を伝えたりしていますが、このしくみがより充実したり機能したりするための行政による働きかけを期待します。
- ・以前は学校の教頭を窓口として申請していたと思うが、今は直接社会教育課が担当するということ？

5) 社会教育施設の整備

- ・さくら資料館の屋根・エアコン、断層観察館の雨どい修理等々、経年劣化による修繕が必要な箇所がたくさんある。しかし、費用対効果の面からも大規模な修繕は期待できない。しかし、さくら資料館に保管されている展示物の中の菊花石など新市庁舎に展示するなど工夫してはどうか。

施策 26 「チーム学校」の推進と教職員の勤務環境の向上

1) 教職員の適正な勤務時間と業務量の管理

- ・勤務時間の把握は確実に行われていると考えます。教育活動の不易と流行のバランスを踏まえた働き方改革を推進していきたいです。

- ・教材研究・生徒指導等、より良い指導をしようと思うあまり、時間がかかる。各研修や連絡等での会議、出張も必要。そんな中でどの時間を削って効率化を図るかは永遠の課題。やはり、行事等のイベントの見直しと校内会議の見直ししかない。
- ・スクールサポートスタッフの存在は、たいへんありがたいです。おかげで、教職員が本分に専念できる時間が着実に増えてきています。
- ・スクールサポートスタッフによる事務補助は、職員（特に学級担任）の大きな手助けとなっていますが、比較的規模の大きい学校では職員一人あたりの事務補助を受ける量が少なく、メリットを感じられにくい状況があります。各学校1名ではなく、学校規模にかかわらず同様に事務補助の恩恵が得られるよう人員配慮をお願いしたいです。
- ・ストレスチェックのシステムを導入いただけ、教職員が「自分を知る」ことに役立っています。

2) 業務の軽減と一元化を図る校務支援システム

- ・幼稚園の正規職員、担任に一人1台のPCが貸与されていない園もあると聞きます。業務遂行のために、ぜひ配置してほしいです。また、幼稚園でも教職員用の持ち運びタブレットのニーズが高まっています。
- ・校務支援システムは、教職員の負担軽減に確かにつながっています。今後も、校務のDX化は図られていくことでしょう。しかし、「最後は人の目」であることを引き継いでいかねばなりません。

3) 中学校部活動における社会人指導者・休養日の設定

- ・地域指導者の方の存在は、生徒にとっても、教員にとっても非常に大きい。学校の教職員は、それに甘え切ってしまうのではなく、大会や休日の生徒の様子を可能な範囲でつかみ、日常の指導・助言に生かしたい。
- ・顧問に過度な負担を強いることのないようにするためにも大事。

4) 勤務時間を自己管理する働き方の徹底

- ・多くの教職員が「行事をもたない日」や「日直を置かない日」を使って、夏季休暇等を取得することができています。
- ・令和6年度のことになりますが、岐阜県行事をもたない日8/6（火）～8/16（金）の期間内に、市主催の会議が位置付けられ、休暇を取得しづらい状況があります。会議日程の位置付け方については、学校教育課以外の課においても、学校職員がかかわる会議については同様の配慮をお願いしたいです。
- ・こういう機会がないと園・学校教員は休みにくい。大切なことである。
- ・特別な日を設けなくても、できるだけ残業は減らしたいが、そうもしないと帰らないのが現状。

方針3 ふるさとへの愛着と誇り

施策27 「ふるさと本巣市」を学ぶ教育の推進

1) 「ふるさと本巣市」について学びと発信

- ・本市の自然遺産・歴史遺産・農生産・伝統文化等を体験を通して学び、その保存や振興等について考えさせる授業の充実、とても意義ある事業と思う。実際に体験を通して、本巣の多様な良さについて実感でき、将来を考え、振興や保存への意欲も高めることができると思う。さらに充実させたい。
- ・本市の各地域には、素晴らしい財産＝学習環境があります。これらの財産と、学校の総合的な学習の時間を有機的に結び付けていきたいです。そして、本巣・真正・糸貫・根尾の子どもたちが、それら4地域＝本市全体をふるさとと思えるようにしたいです。
- ・校外学習には時間や交通手段、安全の確保等課題は多いが、やはり学校を出て現場で学ぶことの意味はとても大きい。

- ・これらのことはまず教員側が感動と興味をもって、事前、事後に子どもに指導していくことが肝要。ただし、引率していった説明を聞いたりするだけにならないよう。
- ・真桑文楽の伝統、中学生にはあまり関心がないのか。
- ・真桑小では「起業家体験学習（6年）」を通して、故郷のよさを発信したり、社会参画の意識を高めたりする学習を実践しています。商品販売による利益の使途を子どもたち自身が話し合い、後輩のためにボランティア等で使用する掃除道具の購入する以外、すべての収益金を岐阜新聞社を通して能登半島地震の被災地へ寄付しました。
- ・SDGsはトレンドでも合言葉でもなく将来のわたしたちが存続できるかどうかという大きなテーマ、目標をはらんでいる。教師側も事前にその主旨を十分説明されたい。
- ・国民文化祭が予定されているが。
- ・練習に参加しない。
- ・タブレットを十分活用されたい。

2) 「ふるさと本巣市」の偉人の生き方の学び

- ・本巣の偉人の生き方を学ぶ授業はぜひ充実させたい。高木貞治については前にも「数学のまちづくり」でも指摘させていただいたが、「数学のまちづくり」事業の最初に、高木貞治博士の生涯について学ぶ授業を計画したい。
- ・その他にも、本市には子供たちに誇りを持ってもらえる偉人は何人か存在する。金原明善や宇野千代についても本市の偉人ではあるが、本市出身の人ではない。先に述べた黒川栄（へき地医療 根尾）、久富宇三郎（糸貫川べ切 糸貫）、松尾松太郎父子（富有柿生産の拡大 糸貫）、武藤貞一（評論家 本巣）など多彩に存在する。ぜひ教育委員会や教育団体などの手で教材化し活用していきたい。
- ・昨年度、久しぶりにワンダーランドを訪れると、教具が入れ替わったり、レイアウトが変わったりしており、継続と発展を感じました。

3) 「ふるさと本巣市」の文化遺産からの学び

- ・いつ起きるかわからない大地震に備え、防災教育の重要性が高まっていると感じています。
- ・学校が積極的に本市の施設を活用することで、ふるさとへの愛着も育むことができると考えます。
- ・今までは宿泊学習の帰りに寄って行くことができたが、今後断層観察館だけを目指して来ることに、日程、予算等の制約がかかる。防災教育にはうってつけの施設だが、5年生にとっては地震体験が一番わかりやすい。
- ・真桑小においても、毎年6年生が船来山や古墳の館を見学する学習に参加しています。本物に触れる感動や地域への愛着が育っていることを実感しています。今後もぜひ継続して、このような学習機会を確保していただきたいです。
- ・真桑小のような大きな学校はローテーションの都合で体験できなかった。根尾へ来るためには何か他の学習と組み合わせるべきか？たとえば淡墨桜とか。防災そのものなら出前授業や地域の防災士の活躍も期待できる。

施策 28 社会参画力の育成・ボランティア教育の推進

1) 「MSJ」「MSキッズ」活動の推進

- ・本巣中の例で、ていねいな「あいさつ」が定着しつつある。
- ・この推進委員とは何か。

2) 地域行事へのボランティア参加

- ・中学生が活躍できる機会としてとてもよい。
- ・対象者自ら企画に参加する方法はとてもよい。
- ・地域の大人の方が汗して子どもと一緒に取り組まれる姿を、子ども（特に小学生）が見ることが、

地域貢献の心を育むと考えます。

- ・市内すべての地区で河川の愛掃活動があったはず。

施策 29 本巣市を担うリーダー育成の推進

1) 学校を中心としたリーダー育成

- ・児童会サミットに中学生が参加する試みが行われ、双方の子どもにとって、大きな励みとなりました。
- ・実際には祭事を含めて担い手の減少が心配されている。その点でもふるさとを誇りに思い感謝の気持ちが持てるようにしたい。
- ・児童会サミットは自校での取組のよさを確かめたり、他校のよさを学ぶ貴重な機会となっています。発表よりも交流を重視する在り方が子どもたちの感性や自主性を高めていると感じました。市長さんや教育長さんたちから、直接認め励ましをいただけることも、子どもたちの大きな励みや自信となっています。
- ・例えば真桑文楽についても中学生の担い手が少ない(?)学校の部活としてなくなったと聞く。これも悩ましい問題であり時代の流れとして受け入れざるを得ないが…

2) 市が主体となったリーダー育成

- ・特に広島研修を経験した中2以上の生徒たちにとっては、実際に戦場になった沖縄・そこから復興しさらなる発展を目指す沖縄で学ぶことで、平和や安心な生活の実現をより強く誓う大きなチャンスになると考えます。
- ・今の子どもたちの興味、関心にそぐわなければ無理強いできない。中学生にもなかなか市のビジョンというのは考えにくいかもしれないが、自由な発想を述べる機会として”夢”を語ってもらいたい。

施策 30 青少年健全育成の充実

1) 青少年の健全育成に対する効果的な広報・啓発活動の推進

- ・地域の市民運動会で活躍する中学生をたくさん見かけました。
- ・本好きな子を育てるにも、良い企画。
- ・令和5年度の中3生は、過年度の先輩の姿を知らない中で「ふれあい会議」に臨んだが、地域の方々の根気よく丁寧な助言のおかげで、やりきることができたと考えます。子どもを中心に据え、それを取り巻く家庭・地域・学校が、横の連携をとりながら、何ができるかを考え行動できるコミスクでありたいです。

2) 子供が行事等の運営に参画し、マナーや社会のルールを学ぶことができるような地域づくりの推進

- ・ジュニアリーダーもまた、子どもが校外で活躍でき、新たな居場所にもなり得る活動であることから、年20回の活動の完遂には大きな意義があったと考えます。
- ・プロジェクトアドベンチャーは行われなかったのでは？
- ・子ども会組織がなくなってきています。
- ・市連Pと単Pのあり方について、交流はそれなりによいが、負担感で課題は出ていないか？会議、発表などにおいて。
- ・当事者が進んで関わり、運営していくことはとてもよい。

3) 海外に視野を広げる機会の設定と、青少年の豊かな国際感覚の育成（中止）

- ・やむなし。

施策 31 歴史・文化活動の推進

1) 伝統文化の継承と継承者の育成

- ・伝統文化の継承は大変。悩ましい問題。学校現場でも限界とのこと？
- ・中学生の係がなくなっています。

2) 各保存会、文化協会、文化団体、サークル等の活動の支援

- ・中高生が、日頃の練習の成果を発揮できる場として、継続的に確保いただけていることがありがたいです。
- ・根尾踊り保存会や能狂言保存会ではありがたい制度。

3) 先人・偉人の調査・研究や歴史的文化資料の整備、保護・保存及び有効活用

- ・今春、早朝に満開の淡墨桜を見、訪れた人々の感嘆の溜息を聞き、本市の淡墨桜を改めて誇りに感じました。2世も成長していますが、この大樹がいつまでも続くことを願ってやみません。
- ・文化財の所有者（管理者）と文化財保護の立場が対立した場合の落とし所をどうするか。予算もあるし悩ましいことがある。文化財全体の見直しが必要ではないか。市制20周年はその契機にもなる。
- ・いずれ一般市民にも分かりやすいように簡易版の報告書が出され、改めて船来山のもつ文化財の価値を広報されたい。
- ・歴史のまち、ウォーキングのまちとしての両方の価値を持つ計画になることを願う。

4) 文化的な学習機会の充実と語りべボランティア等、人材の育成、地域文化の伝承活動の推進

- ・毎年5年生が楽しんで算数ウォークラリーに参加しています。算数甲子園には参加が難しい子であっても、この行事は仲間と一緒に楽しく算数に触れられるよさがあり、今後もぜひ継続していただきたいです。事前に行事のPRに来校し、子どもたちにプレゼンをしていただけていることも、参加する動機付けになっています。
- ・保護継続か指定解除か専門家や委員の検討意見を踏まえて適切な手続きになっていると思うが、所有者の考え、立場もよく吟味したい。
- ・エリアが広く予算が要ることだが、適切な処置を望む。
- ・子どもたちを巻き込んで、ふるさとの文化を誇りにする気持ちを育む取組としてもよい。
- ・展示や保管の問題もあるが新市庁舎の一面に常設展示できるとよい。